

壹岐名勝圖誌

新城

二十四

| | | | |
|-----|-------|-----|----|
| 和書門 | 二九三九九 | 二二六 | 二五 |
| 類 | 函 | 架 | 冊 |

| | | | |
|------|----|-------|----|
| 內閣文庫 | 和書 | 二九三九九 | 二五 |
| 類 | 冊 | 架 | 冊 |

内一〇六八號

地六六

| | |
|------|---------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 29399 |
| 冊數 | 25 (24) |
| 函號 | 176 166 |



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



百九十九卷之二十一

神祇

神祇

神祇

神祇

神祇

神祇

神祇

神祇

神祇

二十四

壹岐名勝圖誌卷之二十四

壹岐郡新庄村之部

内一一〇六八號



田言新合五拾三町七反二畝六步半

高九百六拾六石五斗五十三合

田言新合五拾六町二畝拾三歩

高三百四拾二石二斗九升二合

民户一百九拾二烟

人数八百五拾三人

内男四百六十五人
内女三百八十八人

神社

三拾四所

内三所本社口二所官社

仏閣

二拾所

内三所本寺

全圖

北



南
國分



堤 八ヶ所

當村東ハ管崎ノ界南ハ國分ノ界西ハ布氣本宮可須等ノ村ノ
界北ハ海ノ限リ和名抄ノ所載ノ可須郷ノ属ニテ東西東ハ管崎
界郷嶺
ヨリ西ハ布氣 三十町ハカリ南北 南ハ國分界焼石ヨリ北ハ海邊 五十町
界石田ノ至リ 和合濱鳥帽子石ノ至リ
ハカリ周圍 鳥帽子石白水界久保枝石梶山ノ西石瀨牛神止簾掛峯
寫部赤瀨原久呂橋ノ本以上管崎界初尾三反田川
上焼石以上國分界戸板原石田橋以上布氣界神通本宮可須ノ界
鎌ノ原六地藏ト記ス川真木川ツル川堂塚妙泉白田舞峯
小藏以上 三里六町六十間余新庄ト名付タル故ハ壹岐傳記
可須ノ界 曰中葉乱世ノ時管崎ト可須トノ西村ヲ割テ新ノ里ヲ
スルモ故ノ新庄ト名ツク又云新ノ樋結ノ城ヲ築ク由
スニ新城トモイヘリト云 國中今ウケク庄名ノ傳ハ甚ダハ 郡
當村ト武生水ノ庄ハカリナリ

鑑云新城村南向地廣土地中北風當米小豆麻中粟蕎麥

桿小麥辛子木綿下大豆大麥下シ今祢古ノ以ノ里ノ名

本村 齋方 野口 高松

序山カシヤマ 志源田シケンタ 神岳 於呂振オロフル

原 赤田アカタ 宮地 龜振カメフル

庄屋 建村中ノ東 于丁間向

此所元擬大宮日本屋敷トシム凡竪三百間ハカリ横六拾間ハ

カリ 于今大行事 屋敷ノ其一

矢保丸祠 在大谷 庄屋ノ午未ノ隣

石祠 己午向 去本社 若宮大明神モ云 下皆准此 乾可五町

境内

東西九間余南北廿五間余
周圍七十八間余

當社ハ神社帳小川隅矢保元とあり

古城跡

在庄屋巽
榎結城に云

此城往昔庄司の居城ありといふ本丸東西拾八間南北十四

三間堀の周り六十五間深七尺七寸 東の横六間余南の横十四間
余西横七間余北横三間余

惣周圍二百八間 一書云可須の本庄山戸村とあり此城より
岸の高さ二間余

三十間斗り東小土橋あり 長四間 是を榎結橋といふ其下流

を太刀洗川と云 東西六間南北十二間
其形菱のこま 其橋より廿八間東に十

人塚と云あり 方十二間余
の築地あり 松一株生せり又云城地畠とあり

一東西南三方の岸上畠端より敵身方討死の骸を埋め

一白骨多く今ををり 農人あり出せとありと云 或説小

文永十二年九月十四日申の時壹岐の西面小嶽古の賊船四百五十

艘着岸其中能二艘より四百人斗り下りて赤旗を指て

東を三度敵を三度拜せ其時守護代平内龍三尉經高並御

家人百余騎庄三郎の城の前して矢合を遂言人ハ二町斗り

小射る矢御家人二人手負ぬ異敵ハ大勢叶ふくと無りハ

きハ城内小引退て合戦を翌十五日終小攻落されて城内小

て自害せと云 畠中小其墓標とて于今
石一本五たり長三尺三寸

中津山 属庄屋亥子

山中小中津神社より 一より故小名とあり

中津宮 在中津山

祭神中瓊々杵尊九天兒屋尊右太玉命

御殿 南向 去本社可四町

拜殿 桁 三間半 梁 二間 茅葺

境内 東西三十八間半南北四十間半 周圍一百三十八間

社領水田廿四七步半

神物

石額 一隻 延宝四年國王奉納

告文 二通 寛政年中清朝臣奉納

當社ハ神名式小所載之岐郡中津神社大神是あり 日本

管領社記云壹岐管二謹請壹岐中津神社 若宮記云若

宮大明神の御女を仲姫と申父ハ應神天皇此皇后仲媛命

ハ今虫迹を仲津宮大明神とよむ今瓊々杵尊と祢何也是ありむ 後花園天

白王享徳三年 甲戌二月造替あり 今嘉永五年小至り 三百九十八年 吉野赤貞

大宮司たり其後往々造替あり

矢保左祠 在由房 申向 素社良可三町半

境内 東西十間南北十八間 周圍五十二間余 今所改不足

當社ハ神社帳小多利江矢保左古來勸請年數不知と云

るを不き

寶持院 在木村大谷

樋結城壩
庄屋



本尊地藏菩薩像長五尺三寸五分

堂 申西向 方九尺

茅葺

寺地八卯辰小町

境内二町三步

内寺地 横四間 竖十二間

方十八步

山 横三間 竖五間

十五步無蓮上

當院八神岳山末流中興永禄二己未年花山良儀

觀音堂 在原五門

堂主金藏寺

本尊坐像長九寸

本尊坐像長九寸

堂 南向 九尺方

茅葺

堂地 東西二間半 南北三間

十五堂 在原馳道

堂主同上

本尊地藏菩薩像長五尺余十五聖像各長六寸三途川老婆像

長七寸

堂 南向 方四間

瓦葺

寄島二十四步

若宮大明神 在原里

村中の産神あり 例祭九月十六日

祭神日本武尊仲哀天皇應神天皇仁德天皇天種日命

正殿

西戌向

桁八尺五寸
梁五丈三寸

柿萱月

祝詞舎

桁七尺
梁九尺

瓦萱月

拜殿

桁三間五尺
梁二間五尺

茅萱月

御饌殿

桁三間
梁二間

茅萱月

地神

在境内

石祠

南向

船荷社

在境内
向日上

石鳥居

去拜殿西戌七間二尺
元禄八年乙亥二月建

當社ハ山列平野大明神同体にてあり方次あり杜記云々

政尊若宮大明神ハ分十七代の帝 仁徳天皇の廟あり諱

ハ大鷦鷯尊應神天皇弟四の子あり母を仲媛命と申す五百城
入彦皇子の孫あり皇子兄弟相讓て位はけり給ハきく三
年あり遂ハ二十四歳ありて皇位ハ即給大歳 癸酉ハあり二年
磐ミ媛命を立く皇后とシ難波高津宮ハ都リ天下を治
給ハハ十七年春正月崩一給時ハ御年一百十冬十月百古鳥
野陵ハありハ初廟を平野大明神と号す是若宮大明神
ト同貯分神あり御殿西向一貯崇神ト此神ハ大江氏の神也平
野ハハ五所あり是ハ人皇五十代桓武天皇延暦年中ハ立ト
ハ是則中原名字の氏神あり又百姓の氏神ありハ日本
武尊源氏神分二仲哀天皇平氏神分三應神天皇言階氏神

牙四仁德天皇大江氏神牙五天穗日神神代の神天照太神の子
 中原清原菅原秋篠右四姓の氏神一○神名品書云新庄
 小八若宮四所大明神一○神社帳云原若宮大明神本社言系に
 了勸請年数不知宝殿拜殿一定祭九月十六日一
 元龜三壬申年宝殿再建棟札一國主隆信朝臣在判寛文
 二壬寅年宝殿再建國主鎮信朝臣在判の棟札一年奉幣
寄進のり其銘云願主藤原末言敬白願主五良丸三門
 大夫作者賢山 今嘉永五年小至り三百七十三年等り天文六年丁酉
 八月廿七日宝殿庫藏造立棟札一波多彈正忠源武押代
 官佐一亦佐渡守栄花押大願主敬白作者久黄

山 東西廿九間
南北二十八間

佐肆布都社

船石 堅五尺五寸横二尺七寸
縁高九寸五寸四寸芬

千満両珠石



馬場 竪九十間
横六間

神物

知行二解の寄附あり

社例

社記云 裁卷もかゝり 若宮大明神古屋敷より今の社地不
し七給ひし頃ハ神領多く年中教度の祭礼を厳重なり
かゝり永祿の頃神田より三及元和の頃大宮司水田七及九畝廿一
内紫原水谷免野口田上七畝高二石三斗九升五合本宮村水田二及四畝
高石八斗三合新坂村水田四及八畝廿一歩高八石五斗九升八合
小減し以てハ其かゝりもありまぬひくむしを忘せたる
とるしとるのゝ大行事屋敷七角所ありて例年備置
行事地頭屋をつとむあり 以上

古社地

今古屋舗と云

此所前ハ田地にして後ハ林あり凡方を町まあり○社記云
古屋敷といふハ若宮大明神の古宮地あり御託宣ふ任せ今此新
地ハ安鎮重あり是ハありて不ヤ一畝の田の名を前神田
といふ又大畠といふハ九月十六日の晩帰社の様交場あり右
古屋敷前神田馬場の的場石といひて立石なり馬出石と
いひて横石なり月付石といひて立石なり又傳多し一ノ屋
敷の内ハ橋園といふ所なり其島中ハ石なり 東西二尺四寸南北二尺
三寸 里俗橋石といふいひ傳へり 二寸六歩周也七尺高

秋加堂

在本社境内

堂主金藏寺

金藏寺
若宮大明神



ハニキ



本尊重像長四尺余

堂

西向

桁九尺
梁八尺

茅葺

御池

去石鳥居画成八間四尺余

此池東西六間半南北五間四尺水神社在其中 亥子向

例祭九月十廿夜大神樂十六日國主代参奉幣種々の規式あり

また神輿神幸あり奉り浮殿小休幸流鏝馬相摸等あり

還幸あり奉り

夫婦石 馬場傍あり

矢保老祠 在中下

小祠 巳向

若宮山金藏寺

在原

本尊地藏坐像長七寸八分
立像長七寸八分

妙福寺本尊寄宿釈迦坐像長五寸三分

本堂

申向

桁五間
梁四間

茅葺

廊下

桁二間
梁三間

瓦葺

庫裡

桁五間半
梁三間

茅葺

境内 寺及坊三步

内寺地

豎十五間
橫九間半

五畝七步

口山

豎十九間
橫八間

五畝二步 運上山

當寺ハ神岳山未泚あり○梵刹帳云新坂村金藏寺中興

元龜三壬申年用山還空○神岳山往事帳云金藏寺真

言宗起ハ神岳山先住十世重仙法印以上○永祿田帳三及年

文金藏寺ハ當時寺産國印拾石の寄附状あり

地神

在原島中

石祠

巽向

文殊堂

在原徳杖

堂主金藏寺

本尊坐像長七寸三分

堂

辰向

桁二間
梁九尺

茅葺

堂地

豎四間余
橫三間

寄島拾八歩

矢保佐祠 在本村阿久津山

石祠 午向 去本社成可五町

境内 東西十三間南北六間 周圍六十四間

打田橋

此橋石長四間半正中石豎七尺七寸五分横四尺余厚五尺
二寸里民云むかひ内藏丞といふものより道を町おとに酒
を扱を置和合漢より石をもよほハセ打田の橋をかく今大
橋より北東の方小石塚二つ有り内藏丞夫婦の塚といふ
いひ傳ふ

佐肆布都神社 在打田里

石祠 卯辰向 延宝四年國主奉納あり

上屋 五尺方 瓦葺

境内 東西十八間半南北十九間半 周圍六十七間半

舟石 四出上 去御山北十七間半其形勢真の舟の如し

當社ハ式の神名帳小所載を岐郡佐肆布都神社なり 延宝改以

前ハ佐志布知大明神といひしなり

八龍神社 在打田里

石祠 午未向 去本社北可十町

境内 東西十五間余南北十三間半 周圍六十間余

小島居建

宝物

千満珠西石河上出

寄島 在田

地藏堂

在田

堂主金藏寺

本尊踞像長七尺二寸五分服士不動立像長七尺八寸二分多

門立像長七尺四寸八步

堂

已向

二間方

茅葺

堂地

竪四間余
横三間半

寄島 在田

打田里

魚ら川

属可須村界

源橋水より出下八打田樋結川に流入

舞^{マヒ}峯原

属亀振

此野原東ハ宮寄小属一西ハ可須小属一ト在廣一古

老相傳云むかし舞嶺判官とよ人すあり也

舞嶺池

口上

池竪三十六間

酉戌
卯辰

横十八間深八尺芦真薦を土を傳

云むかし大とよ人一夜の中お對馬より渡り来り辰

鳴と舞峯小踏つくりルり時お聖母大明神こゝ千

把を以てつち片足作し七給ハ大甚く驚きしにけ

かへり

和合濱

村の北海辺あり此邑の属す濱長一百六十間此濱小ま
婦石有り故く和合濱といふなり

夫婦石

在同濱

東石

東西丈三尺八寸南北八尺二寸
周五間四尺六寸高五尺

西石

東西丈四尺六寸南北六尺三
寸周り六間高五尺六寸

一各塩湯石とも云

烏帽子石

又鮑石有り

亀振原

此野多くハ松魚及民居り此の里民云むう一かめあり長者
といふ者有り彼長者の牛及摺鉢味噌餅化して石とあり
其形勢の石数枚有り寸尺ありくまらざるもいつくハ

ハせハ畧さつ

癩石

道傍あり此石より出て里の
名も癩石といひあり

此石東西四尺五寸五分南北五尺三寸周回二間三尺四寸高五尺

九寸形勢癩のいし一故に名とせり

癩石振里

成山堤

属癩振

水溜七畝北免の水田を町三反高丈を石二斗ふり了用水
あり

牛神

在口里

石祠

巳午向

去本社北可五町

石祠

午赤白

境内

東西十三間南北十間余
周圍三十九間

スレカケ
簾掛山

属宮崎

村民云むり言寄と新城と合村の將大將の陣とて簾をか
りし故此名あり又軍勢の集まりしを名付て赤白と
云と

カウミネ
郷峯

村の東言寄界

長尾

属野口

此丘東西三百五十間南北二百間より頂上小神石

鳥神

在長丘

赤淵

属崎界

源樋結川より鳴洞原螺淵寺を經て此淵小入末ハ宮崎

崎部淵小入

野口山 谷

此山民居の前後左右小入り又石畠の中に塚あり周圍九間
高き丈村老傳云むり此所小ゆり長者といふは此より
て六反田よりゆり畠小原螺淵を越て凡一百五十間斗
かけつくりをありて住り長者に二人の娘あり其姉妹を
率て縁頼小出て川原を見り一川の原螺あり姉妹小い

神嶽權現

北面



其二
南面



什物磬

摺寫



厚



尚書

良字錄

宣德元年五月

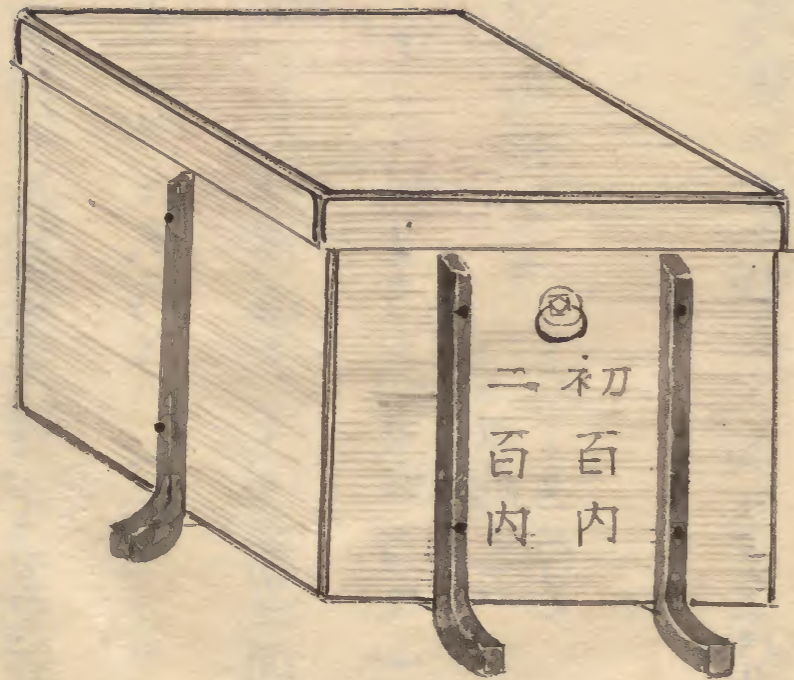
其二
華鯨

高二尺八寸
巨二尺七寸三歩
釣子高五寸五歩



辛櫃 三合之内一

竖二尺横一尺六寸
高一尺七寸六歩蓋
竖二尺一寸半歩横
一尺七寸七歩高二寸
四分三十分外法
足高一尺八寸左右
ヨリ十字ヲワタセリ



ひて云彼炭螺をとりて給へと姉諾ハ河辺に臨みて取らむとせ
し時何れハ去りす水中に引こむ長者嘆て其體を長きと
いふ以ふ蘇む和令濱より石を天狗とりふもくもせ塚と云
と二人持成ハ今其塚を以て周匝三十間高二間計り水田を
買取の石
さうく十間余申
女をかくせしはを姫前塚と云
今其所の石
を取て是塚と云



焚口里

鳴関

平川の下茶を割の上之横十間高を同斗の跡あり

高松羽神

在高松 例祭九月十四日

祭神瀬織津媛神及三神

御殿

南向

去本社東可六町

拜殿

桁二間半
梁二間

茅葺

境内

東西十二間南北十八間
周圍六十六間

神島三町あり

當社ハ枝戸神あり

矢俣佐祠

在高松

境内

十間方

薬師堂

在高松尾江

堂主不動院

本尊坐像長七尺五寸服七日光月光各立像長七尺二寸

三分十二神將各五寸

堂

辰向

桁二間
梁五丈五尺

茅葺

志賀大明神 在高松

例祭十月十三日

御殿石祠 未向

上舎

桁九尺
梁五間

瓦葺

境内

東西十八間南北十八間
周圍九十六間

當社ハ筑前國志賀海神ノ月躰山ノ下若宮大明神ノ樓

社あり

高松里

妙見神社

在高松電坂

石祠

辰巳向

境内

東西八間
南北十間

矢保丸祠

在志原田柚木

小祠

南向

本社已可七町

拜殿

桁二間
梁九尺

茅葺

境内

東西十四間南北十六間
周圍九十間

志原田里

楠木大明神

在志原田醜田

本社南可八町

祭神磐楠杵神

神木楠一株周圍三間壹尺五寸

境内

東西九間南北十間
周圍卅五間

不動院 在宮地村

本尊地藏座像長壹尺五寸三分不動立像長壹尺壹寸五分

容殿 已而 桁三間半 梁九天 茅葺

庫裡 桁三間半 梁三間半 茅葺

境内 三及七畝十七步

内寺地 横十一間 二畝十七步

日山 横十一間 三及五畝運上山

寺産高四斗六升 寛永二年十二月廿八日 隆信朝臣ノ證狀一通アリ

當寺ハ神岳山の末派ナリ ○梵刹帳云 新城村無動院中

奥慶長二丁酉年用山暹報云 ○永祿田帳云二及四丈不動

院 ○新城村田清帳云田三及三畝九步高三石三斗二升三勺不動

院

古社山 一名八幡山 属官地村

中葉宮崎八幡宮鎮座一給以一〇〇元録年中宮崎小

還幸より了以故小此名有り今八幡宮と稱してさうす所之

神嶽三所権現宮 在神岳山

祭神上宮中妙見大神九白山大神右彦山大神中宮中熊野大

神九日吉大神右大祖神下宮妙見大神

上宮 在經丘

御殿 寅向 桁二尺九寸 梁二尺七寸四步 板葺

上屋

桁五尺

瓦葺

中宮

去上宮康を町

去若宮未申可六町

宝殿

申西向

桁二間五尺二寸

柿葺

上屋

桁三間二尺五寸

茅葺

廊下

桁三間二尺

瓦葺

拜殿

桁三間

茅葺

本鳥居

去拜殿四十八間

馬場

長四拾間

神山

東西拾町
南北五町

門守

銘云延宝元年二月平田如實

宝物

大般若經一部

轉禮三令納

密宗三部經
曰諸以茅凡

鐘

一口 四上不出寸

銘云一列神位化山権現宮鐘也又以天下安寧并十方助成

干時應永之辰十九
層院任祐雅

大工丹國告

當社八鎮産年歴不詳縁起の説有りといへども正説とす

いひし〜然るに古社あり寛永十二年乙亥九月宝殿

再建國守隆信朝臣花押の棟札有り次で兼應三年甲午八月

拜殿再建國主鎮信朝臣押字の棟札有り又次で文化四年甲子

二月宝拜殿日時再建國主與朝臣押字の棟札等有り

羽休神

在権現中宮東三町余
影向所と云

三所権現年中行吏

正月元日辰刻上宮祭巳刻中宮祭午刻下宮北山殿の祭之

二月十五日涅槃之祭同彼岸一七日護摩修行成之

三月三日祭

卯月八日誕生祭

五月五日端午之祭有之

六月十五日祇園會祭

七月七日七夕祭

八月十五日放生會同彼岸一七日護摩修行成之

九月九月祭有

同月十八日本會式之神事

十月一日送祭同廿九日迎祭

十月十五日法花祭

十二月十三日祭同廿九日大歳祭有之

以上

神岳山本宮寺

在神岳

本尊釈迦聖像金仏長二尺寸五分不動立像長壹尺七寸八分

服士給迦羅制多伽各立像長壹尺五寸余惠心藥師坐像

長壹尺五寸五分

今按てらに神岳山本堂の本尊ハ不動尊にて今安置す
 了釈迦の金仏ハ本尊ハハありてをハ元釈迦院と
 て別所ありて一時の本尊とて一風土記ハ新迦院本
 尊金仏釈迦座像長五尺七寸廣院ハ神岳山往事帳ハ神
 岳ハ新迦院神岳山附法相續第一世権律師快勢二世
 快榮其次無住とて後所ありとて其院中葉廢
 了後本堂ハ寄宿せりて又後ハ本尊とありてを
 良む世の謗ハ借屋かして重敷とていひ諸れ
 了ゆふ然とても久く本堂の本尊と崇め奉りてハ
 今更ハ外ハありてハありてハありてハありてハあり

かこ試りて後を記す

- 本堂 桁六間半 梁五間 茅葺
 - 廊下 桁二間半 梁二間 瓦葺
 - 居間 桁三間半 梁三間 瓦葺
 - 庫裡 桁六間 梁四間 茅葺
 - 玄關 桁二間 梁六尺八寸五分 瓦葺
 - 中門 桁二間 梁七尺 瓦葺
 - 四足門 桁八尺五寸 梁七尺五寸 瓦葺
 - 山門 茅十三堂 桁二間五尺五寸 梁九尺 茅葺
- 本尊地藏座像長五寸八分十五各坐像長六寸五分三途川老

婆五寸余

山門寺地

豎八間余
橫拾二間余

四境内 三及六以拾六步

中門内山 豎五十四間
橫拾六間

二及八以廿四步 無屋上

寺領二拾石國印狀五通可

寬永二年十二月廿八日隆信朝臣

口二十年二月十一日鎮信朝臣

元禄九年正月廿六日任朝臣

享保七年四月一日篤信朝臣

寬延二年十月十八日誠信朝臣

未寺附屬證狀二通

志列

神岳山本宮寺服寺

新城 一景院

口 万福院

口 實相坊

口 與之坊

口 十五寺

新城 金藏寺

口 妙福寺

口 無動院

口 宝持院

勝本浦 神皇寺

口 未寺

口 地命寺

口 能満寺

長嶺高峰寺

口 宝壽院

小牧福性寺

半城地蔵院

口 宝蔵坊

立石 聖蔵坊

武里 本勝寺

右寺教下本宮寺末寺川徒

公義兵 作出 越後相守於市 凌宵無之 換下 女中 付者也

延宝四年辰年九月十日

本宮寺

松浦肥前守 徳信押字

同一通文同上

寛延四年十月朔日 誠信朝臣

國中亦入承依願并下證状一通 左のこゝ

神岳山下

石及致壞相續雖亦成ハ付外山之分土地在指上ノ先
年之通壹岐國中ハ札守入亦入承高懸并下ハ依

願其通新 作出高拾石、廿三合宛高をく積を以て
お下より勿論是より右土地は及ぶ長左此より然るは取返
て成る

右之越つて申達以上

安永五申五月十六日

豊田宮左馬
然以作右馬
松浦典候
直記

能川跡一右馬後

豊田基酒多後

以前當山は宝物ありし中葉願主へ差上りし由の證書あり
其文

覺

一 子玉

左願

一 水玉

左願

一 瓢形小壺

左口

但平安散如千々散藥を納ル

右先年

御前より吉整茶等々法上諸品の中二分は書物蔵に
枕納有之は右先年の品物も同様此三品も茶を裁て
傍に神岳山下記に所産の以上

子二月十八日

年田部矢柄
立石洋語
周 文吉

末寺の知行状等教通有りといへども今畧す

什物

磬 宣徳九年五月日 尚瑞司の銘有り図上り出

當寺ハ壹岐真言の惣祿也最初ハ比叡山延曆寺の下知を
請て真言教判ありとて始ハ本宮村海濱の園ハ坊菴を

草創す 其旧地を古坊と云竹林の中ハ石塔多く
有り僧宗悦の墓昌中ハあり 其後天台の

僧住居して神岳の山谷廣地を見立一山の寺院を弘め
むと神岳の嶺西原ハ寺院を移せし嶺高り色ハ大風の

為寺院を吹破り山門を谷ハ吹落せし因て南の谷川の岸

下窪地ハ寺院を移せり 其西原ハ有り一時の名今畧ハ残りて内縁
外縁ありといり又井有り坊川といひて今ハ

水あり元弘正慶建武の間の兵亂ハ比叡山門の合戦ハ寺院悉く

兵火の為ハ焼失して地落乘る僧共此神岳天台の寺院あり
を以て叔多の落僧管山を頼來て山内所ハ坊舎を構へて

住せり是則一岳院ハ福院實相院千手院十王寺多あり今

皆小堂とぬきり権現山の麓の山中ハ六ヶ所の菴室を構へ僧
侶共住めりと是ハ六坊といへり 其坊菴の跡相並いて
石垣の崩ぎハ形有り 乱世方續

了て寺院衰へ民家ハ寺ハく愚僧相續キ住居して氣基
由堵寺号を失ひしとて或時奉行人ハ来りて寺号を問

ハキリ以住僧神岳山と答再三問といつと一問ハ答へル
まハ奉行人ハ以て止めり因て後愚僧思ハ寺号を問せ

本宮寺



其二
奥坊



一ハ山号をいひて笑せ一ハ恥一と思ひ付寺院最初の地
 ハ本宮村古坊の地と云傳へ一因て其村の名を以て本宮寺と
 号せへ一と是より寺号定まれり其後真言の僧入院一
 て真言一山の一沓寺と名れり如此零落一して其始古坊余
 基彼地より神岳に移せ一年歴由緒知せむ縁起未なりと
 跡いへとも證書といひうたき説あり寛永年中までハ川端田
 の上今の島地ありハ嶺の西原より移せ寺院有一と進譽住僧の
 時高岸を以て今の所ふ寺院を移せしなり明和三丙戌主任
 僧省庵庭前の岸ハ石垣を築き石階を置山門を立
 寺地の景一とハ勝をたり一に追々文化十五戌寅歳位

僧寬隆権現山岩熊山網場山等の山中ハ十八所の靈
所及諸堂建立して毎歳三月廿一日國中の貴賤參詣群を
為し津の賣人小店を出し市をもち山内の佳景むの
一ハ十倍セリ

觀音堂 号子手院 在境内本堂乾

本尊子手觀音堂像長五尺六寸五分地蔵菩薩像長二尺六寸
五分

堂 巽向 桁二間 梁九尺 葺菅

當院ハ号子手院下神岳取坊より中世廢せしと近記
文化年中再興ありあり

奥坊 在境内

本尊弘法大師坐像長壹尺八寸 回子入

堂 巽向 二間半方 瓦葺

當堂も中興廢せしを文化年間再興す

万福院 在円山本堂

本尊阿彌陀立像長二尺二寸

堂 坤向 板葺

境内二畝二十四歩

内寺地 横三間 竖四間 拾二歩

円山 横四間 竖十八間 二畝二歩 運上山

寄畠 五畝

當院ハ神岳山の牧坊あり

一糸院 在口木堂坂

本尊地藏坐像長七尺二寸

堂 巳午向 五尺方

板葺

境内

寺地

横四間 横二間

八歩

寄畠 五畝

當院も口木堂坂の内にあり

實相坊 在神岳里

本尊阿彌陀坐像長七尺九寸聖觀音坐像長六尺六寸右地藏坐

像長七寸

精舎 南向

桁三間 梁二間

茅葺

境内二畝十二歩

内寺地

横五間 横四間

五畝十歩

口山

横四間 横四間

五畝二歩

當坊も同上○梵刹帳云實相院元基元龜三壬申年

亮賢

釈迦院 在神岳止

本尊金仏坐像長七尺七寸と云々所より中葉以来瘡

あー若くハ本尊ハ今の本堂の袂遊ハハ何〜了〜本堂
寺の部下合可考あり

木道堤 属神岳

水溜八畝富山免の内水田二町高廿五石不町。用水あり

壹岐八幡祠 在権現宮馬場

祭神源隆信朝臣

小祠 丑向 二尺三寸五分方 板葺

上屋 桁五尺 梁四尺五寸 瓦葺

當社八神社帳云神岳山寺内壹岐八幡宮先住准誓

代慶安五辰年 宗陽君神の御位小宗奉了へ此より

云一き夢相を得官造立一御影を崇奉り壹岐八幡と号一

毎歳九月廿四日祭ありと云一

岩熊山 属神岳

此山東西一^百間南北八十間斗り登り三十間余の山路磐石の間ハ

梯あり何りて樹木志りていと物うたる實小靈山か

其頂上の社を建

岩熊権現 在同山上 例祭九月十八日

祭神伊弉册尊

小祠 未向 桁壹尺六寸 梁壹尺五寸 板葺

上屋 桁壹間二尺 梁壹間 茅葺

境内

東西可七十三間
南北可七十三間

甲石

山中不巧

此石

東西壹丈壹尺五寸南北壹丈六尺五寸
高可四間右社成可廿四間

曹石

同山

此石

堅四間二尺橫可三間
松樹生其上右社同上

當社ハ神社帳ハ古来勸請年歴不知ト云々也○壹岐

巡云熊野權現岩熊立山路を去三十八間神山城ト云

三方ハ水田不臨ニ北ハ他山不連リ山中ハ甲石曹石ト云其ナリ

四間ハかり底己不高三間ハ大石ニナリト云其ナリ二十

間底己不社ナリ社ナ側ハ六御前ト云神ナリト云

荒人権現 在神岳荒人山

祭神大己貴神

小祠

己向

桁二尺

梁五尺八寸五分

板首

上屋

桁八尺五寸

梁五尺

茅首

境内

東西三十六間余南北二十間半
周圍一百十三間

當社勸請年教不知

宮地堤

属宮地里

水溜ハ畝水田壹町二反高二拾五石小川ハ用水ナリ

森権現

在志原田

去本社南可三町

祭神伊弉丹尊事解男余速玉男余三箇男余之

岩熊山



小祠 東向

拜殿 桁二間半 梁二間

境内 東西十八間南北十二間 周圍六十間

寄島 壹畝

茅葺

長寄

飯森權現 在片山飯森 例祭九月廿六日

祭神伊弉册尊妙見星管家心

小祠 南向 桁三尺五寸 梁三尺

板葺

拜殿 桁二間半 梁二間

瓦葺

境内 東西四十五間余南北六十間 周圍一百八十五間

牛神

庚申 共在境内

神社帳云片山飯森權現勸請年歷不知

毘沙門堂 在片山 堂主真禪院

木尊立像長壹尺八寸五分古仏壹尺五寸

堂 己向 二間方 瓦葺

寄島 壹畝

雲岫山真禪院 在片山

木尊千手觀音坐像長七寸阿弥陀立像長七寸五分袂迦

坐像長四寸三分

客殿 兼庫裡 需 桁四間半 梁三間

瓦葺

境内六町十六步

境内寺地 横六間

日山 横六間

當寺ハ龍藏禪寺の末流なり天正三乙亥年太盛和尚の開

基ト云順礼亦六番の札所なり

片山里 カクヤ 轉語あり山方といひとせ片山山方

覺久院 在片山茅林

本尊釈迦坐像長六寸

大堂 干未向 桁臺丈八寸 深九尺

尾首

境内 壹町十五步

鯨口一口 銘云天和二乙戌七月吉日片山願院

當院ハ大岡山の末流なり○棟刹帳云新城村覺久院開基芳

山和尙云年歴不詳○永祿田帳云七及三丈加久院

鋒林 属片山

此林堅可壹町横可壹町本宮八幡宮の敷地とす則影向

の松一株有り太き九尺六寸枝葉繁茂して逆枝と南の

田の脇めて俗呼て羽休の木といふ

八瀬田川

源八瀬田より出二百八十間おかし公文名川に至り其より出

百三十間あり終長岡に至り其より七百十間流は川原田川
に至りを終より四百五十間流は三代の落入一云片山川源やせ
たより出公文名きり田三及田川鉢岡川原田川橋本川椎木岡
を経て三代の川に落入一云、此等終りて、此等と下流に

馬背山 属片山

此橋山の中、東西に往来も石橋あり、天工のあま所し人作の
あり、其西石柱 東西九尺南北三尺八寸五分 東石柱 東西六尺余
周り三間四尺五寸高八尺五分 三間二尺余高壹丈四尺余
谷土上の現る所あり 其間壹尺五寸のまきとす、一ととも東ハ高
二十間余の岸ありて、其下の川流あり、故に皆人身の毛も堅て
渡ると掃形、俗に二の石橋と形じり、以て竹のり、
八幡崎の石橋の次、其

外大石多し、亦葉越一百間ばかり出ると四十間とあり、と終を
二石橋といふ、又南の堅一百廿間とあり、横平五間とあり、の橋
山あり、其中の馬の背のあとあり、所より、故に馬背の名を負せに
也

鶏岡

属片山

源七田より出、一百間斗流は、此岡に至る、此岡のハ鶏
此れ久き声をあせりと、故に名とあせり、まハ石橋川を徑
て、一百間流、蟹田川の落入

赤松川落合

新庄布氣岡分三村の畷あり

初尾峠

此所も新庄菅崎岡分三村の畷あり

牧尾

方二百間ハカリの野原あり

赤鹿岐巡云牧野東ハ御灯屋敷ハ限り西田原ハ限り南ニ

カ坂ハ限り北ハ小垣田ハ限り傳云むの馬の牧形リ一町

と野の西方谷ハ馬込といふ所なり今馬

牧大明神

頂上ハ坐り

祭神素神保食神大土御祖神也

石祠

未向

公文名川

原ハ瀬田より出末ハ三及田川ハ至る此川ハ自然の石柱大小

数本並立リ川邊の田地を公文谷といひて昔公文の領田也

公文の由来ハ渡良村國津社の部下ハくわい出せり

平五田堤

属神岳里

水溜ニ及當山免及行山免の水田二所を及高三十石六斗

ハカリの用水あり

石倉山

堤の西ハ隣り

山神

在神岳

石祠

未向

境内

東西三十間南北十間
周圍五十間

石田橋

街道の流ハ渡せり

鞍掛

橋の西端あり

此坂路の味實不鞍越へさやうのほつて東ハ橋より登リ廿四間
西ハ峠より下至三十六間なり

逆様川 ガカサマ 此川末ハ岩熊川ハ流ハ名の故事不詳

炭焼堤

水溜三及東免高松免の水田六町二及五歩高一百三十二石九斗

不かり用水あり

陣屋山 松原之 大還の傍

此松山ハ廣大なりしつきの時世の陣屋トヤ傳へるなり西ハ之

まよふなり

黒龍 コクリウ 陣屋の西ハ隣ハ伝康之れ也

神通 シンツウ 可須本宮新庄三村の界

放呂布留原 ホロフシ

此野東ハ注連本ハ限り西ハ陣屋道ハ限り五町廿六間南

ハ逆様川ハ限り北ハ六地蔵ハ限り五町余尚可須村ハ也

かきり〇日本麻子云おろろ水といふはなりし西行法師

の考ハ

風平たきりきりこころの系おろろ雪の神ハありし也

國花万葉記名所の部目

長山原 おろろ 此東ハつり

此野東西八十二間其東ハ方三尺の井泉あり又其よりを

大南小新井ツリ両井の間に石蔵ありむう長山長者の
住し旧跡とソリ

野中清水

水乃宮と長山原との中不所故不名とせしからん干雨
も増減ありと実不名水所

古の野中の清水ぬるまじと柳の心を志る人そくせ

櫻木塘 属神岳

水溜四及西免大屋免北免の内水田八町九及高一百七十六石

不わい用水所

櫻木川

源櫻木より出工をどの本を経て早田川に至り二百三十

間其より牛屎の渡を経て屋長川に至り一百六十間 属川

下流の各
前不出

牛神祠

在四作 右本社申所可十所

小祠

午未向

拜殿

桁三間
梁二間

茅葺

境内

東西亦壹間余南北十五間半
周圍可七十間余

當社「新社帳云寛文十三癸丑年村中より勸請す

形

四作堤

属神岳

此堤大屋免の内水田八又三畝高十九石の切方用水形
浄樂山

むかひ此山に浄樂寺といふ梵刹ありと云故に名と

廿)

光明院旧地

大畠あり

東由志所也



